

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	金子, 晋丈(Kaneko, Kunitake)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2025
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.12, No.1 (2025. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000012-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

金子 晋丈

慶應義塾大学 DMC 研究センター副所長

慶應義塾大学理工学部准教授

2024 年度の DMC 所員による研究活動及び研究成果をまとめた『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 12 号をお届けします。DMC ではシンポジウムを毎年開催して DMC の研究成果の発表と議論を行なってきましたが、本稿では、2025 年 3 月に開催した 2024 年度 DMC シンポジウム『知と情報と人間：デジタル知の深化と共有に向けて』の様子を掲載しています。

DMC 研究センターでは、これまでにデジタルアーカイブの構築や FutureLearn¹オンラインコースのコンテンツ制作を通して、歴史資料や文化資源のデジタル化に取り組んできました。昨今では研究のデジタルデータや成果だけではなく、そのプロセスをも含めて社会に広くオープンにすることが期待されています。2024 年度のシンポジウムでは、デジタル技術に基づく情報や知の共有システムは、印刷技術や図書流通で構築されてきた現在のシステムを大きく刷新することができるのではないかと考え、歴史資料や文化資源などの分野も視野に入れてゲストをお招きしました。橋詰秋子准教授（実践女子大学文学部）、木村麻衣子准教授（日本女子大学文学部）、池田真弓准教授（理工学部）、荒金直人准教授（理工学部）の 4 人のゲストにはそれぞれの立場から、情報の分類・探索・蓄積・インタラクションといった視点に、書物史、科学史等の大局的な視座も加えてご講演いただきました。その後、これからの人と社会の変化を見据え、情報・知の共有のあり方と可能性に関して活発な議論が交わされました。

DX というものは今後、情報の流通、知の共有といったところに真っ向から向き合っていかなければなりません。DMC シンポジウムで初回から掲げられてきたデジタル知とは何かという問い、あるいは知の殿堂のように言われる図書館、そういったところについて改めて考える必要があります。本質的に我々はどういう風な知なり情報へのアクセス、もしくはそのサービスを社会の中で提供していくのか、一から考えていくきっかけを作りたいと思って、このシンポジウムを開催しております。

このような問題提起は、DMC がその前身である DMC 統合研究機構を開始した 2004 年から継続して挑戦してきたことの延長線上にあると同時に、デジタルが普及してきたことによって生まれてきた新たな DMC における挑戦でもあります。『DMC 紀要』第 12 号を通じ、より多くの研究者、関係者の皆様へ当センターの活動をお伝えできたら幸いです。

¹ <https://www.futurelearn.com/>